

皮内反応試験

<試験方法>

目的	検体またはその抽出液等の試験液をウサギの皮内に投与し、組織傷害性や	
	刺激性の有無を調べます。	
使用動物	ウサギ(日本白色種,雄)を3匹使用します。	
方法	検体(またはその抽出液等)をウサギの背部皮内に0.2 mL注射し,投与直後,	
	投与後24,48および72時間に以下の表に従って皮膚の状態を観察します。	
	紅斑及び痂皮の形成	
	紅斑なし	0
	非常に軽度な紅斑(かろうじて識別できる)	1
	はっきりした紅斑	2
	中等度ないし高度紅斑	3
	高度紅斑からわずかな痂皮の形成(深部損傷まで)	4
	浮腫の形成	
	浮腫なし	0
	非常に軽度な浮腫(かろうじて識別できる)	1
	軽度浮腫(はっきりした膨隆による明確な縁が識別できる)	2
	中等度浮腫(約 1 mm の膨隆)	3
	高度浮腫(1 mm 以上の膨隆と曝露範囲を超えた広がり)	4
検体必要量	4gまたは20 mL以上となるようご用意ください。	
	ご不明な点がございましたら、お気軽にお問合せください。	